

ちょっと役立つ
Dr. 塚田の健康コラム
ONE TEAMでコロナ制圧



新型コロナウイルス感染症により、PCR(polymerase chain reaction) 検査が世間に知れ渡りました。

PCR検査とは、特定の遺伝子断片だけを選択的に増やして調べやすくする検査技術のことです。これまで、ある種のがんや結核菌など、遺伝子的に存在

は、潜伏期が長く(2週間近く)、症状が出ない人も割かいます。患者の予知や特定が非常に難しく、PCR検査に頼る状況ができました。情報が増えるにつれて、無症状でも感染源になるなど、感染症の厄介さが見えてきました。検査精度向上のためにPCR検査以外に、ウイルスによって作られた抗原、感染した人が作る抗体など、

複数の検査が話題に上りました。このように、予知しにくく、見えにくく、登場人物が多いため、臨床現場も混乱の様相を呈しています。

皆さんも感染者と接触した自覚や、現在感染の症状などなく

ても、もしかすると感染しているのでは…という不安があると思います。100%の早期発見や予知など、不可能なことを望むよりも、8割は無症状か軽症と割り切って、前向きかつ現実的に感染症撲滅を考えてみましょう。

ウイルスの最大の弱点は、人間に感染しないと一定時間で死滅(感染力が消滅)する点です。したがって、ウイルス制圧の要点は「次の人に感染させないこと」の一点と気が付くでしょう。

自分が無症状の感染者であると仮定し

て、人と接するときはマスクを着用する。ものに触る前にこまめに手洗いする。密な場所で大声を出さない。定期的に換気する。これらを日常化、習慣化させれば、このウイルスは行き先を失います。

大切な人に感染させなければ、大切な人を守ることができます。大勢で実践すれば、社会から新型コロナウイルス感染症を消滅することができます。家庭で、職場で、ボウリング場で、実践してください。このウイルスは団結力 ONE TEAMに弱いのです。



塚田芳久 昭和54年新潟大学医学部卒業。平成17年から新潟県立十日町病院長。平成28年から新潟県立新発田病院長。平成15年から新潟県ボウリング連盟会長。平成20年4月からJBC理事。日体協公認スポーツドクター。JOC医・科学強化スタッフ。

日本のボウリング史を彩る
レジェンドたちの肖像

File.16 石原 章夫

(2020年殿堂入り)

亡き妻・金田恵子プロとともに
90年代に最盛期を迎えた“遅咲きの優等生”

今年度、後輩の柊樽稔プロ(21期)とともに殿堂入りを果たした石原章夫プロは、1955年(昭和30年)3月7日、千葉県

の生まれ。73年に11期生(ライセンスNo.344)としてデビューした。11年前にガンのため早逝した金田恵子プロ(5期)は7歳年上の愛妻。ともに故・大久保洪基プロ(1期)に師事し、90年代に最盛期を迎えた“遅咲きの優等生”同士でもあった。

2005年(平成17年)の全日

本選手権優勝を含め、通算13勝を挙げている石原プロだが、うち9勝が大阪以西の大会という、西日本キラーとして名を馳せた。とりわけ大阪のイーグルボウル(18年閉鎖)では滅法強く、イーグルクラシックでの3勝(85、91、92年)を含む4勝を荒稼ぎしている。

ステディーなボウリングが身上のストロークタイプながら、時のPBAトッププロも称賛するほどの高精度な投球術を誇った。公認パーフェクト16



▲2年連続3度目の優勝を果たした92年イーグルクラシック当時の石原プロ。会場のイーグルボウルとは抜群の相性を誇った

回、800シリーズ4回の達成記録がボールコントロールの正確さを証明している。

また、JPBAの専務理事、副会長職を歴任した師・大久保プロ同様、協会運営にも積極的に携わり、代議員を11期、理事を3期(6年)務めていることも特筆される。

転球 Time Trip

10年前に 2010年8月5日

出でよ、未来のトップボウラー！
“全小”第1回大会が成功裏に幕

JBC(全日本ボウリング協会)が小学生ボウラーの発掘・育成を目的とした「小学生特別指導会兼全日本小学生ボウリング競技大会(通称・全小)」の第1回大会を開催したのは、今から10年前の2010年(平成22年)8月のことだ。会場はギネス記録の1フロア116レーンを誇る愛知・稲沢グランドボウル。開催日は4、5日の2日間で、初日は基本動作とルールを学ぶ指導会に充てられた。

同指導会には、翌日の競技大会出場選手180人に加え、稲沢市内の小学生110人が参加。坂田重徳(23期)、丹羽由香梨(35期)、谷川章子(37期)ら東海地区在住のプロと当時の全日本ナショナルチーム(ユース含む)メンバーが指導員を務め、終了後にはエキシビジョンマッチでトップボウラーの“模範投球”が披露された。

2日目の競技大会は4、5、6



▲第1回“全小”の会場風景。3学年180人が6Gトータルで覇を競った

の学年別(男女混合)に6Gトータルで争われたが、どの学年でも大人顔負けのハイスコアが続出。関係者の予想を超えるハイレベルな内容と結果を得て、成功裏に幕を閉じた。

この“全小”は、前年まで名古屋市内の星ヶ丘ボウルで開催されていた全日本ミックスダブルス(JPBA主催)に代わる真夏の祭典として定着。昨年度には節目の第10回大会を迎えたが、今年度はコロナ禍のために夏開催を見送り、1月10・11日に延期の措置が取られている。

柊樽稔プロのワンポイント講座

Vol.9 合成レーンも経年劣化する

先月はウッドレーンのお話でした。今回は合成レーンについて書いていきます。もともとレーンの材質はすべて木でしたが、だんだんとレーン用の木が不足してきて、合成のレーンが出てきました。出た当初は、ウッドレーンのように定期的にリサーフェイスをしなくても、半永久的に使えるとのおうたい文句でした。しかしどうでしょうか、日本のボウリング場に入っている合成レーンも年月が経ち、摩耗してきて、ゲーム数の多いボウリング場などは板の傷みが顕著に出てきています。

そのボウリング場のプロやインストラクター、もしくは常連のボウラーなら、レーンの癖を知っていると思いますので、質問してみるといいですよ。初め

て行くボウリング場で試合に出る場合には、そのレーン情報を得ておくことはとても重要です。

通常営業時にハウスボウラーを中心に使用しているレーンは、レーン中央部分が傷みやすい傾向にあります。またボウリング場によっては、ハウスボウラー側のレーンとマイボウラー側のレーンとでオイルの塗り方が違うところもあります。それをいざ大会があるからと、すべてのレーンを同じようにオイルングしても、決して同じコンディションにはならないのです。レーン移動をしたら違うボ



▲ブランドウィックのアンビプロレーン

ウリング場に来たみたいだ、という会話をよく耳にします。そこで同じコンディションだという先入観があると、その固定観念が邪魔をして対応が遅れてしまうことがあります。同じメンテナンスマシンで同じパターンを塗布していたとしても、レーンの材質やその使用状況などにより、コンディションは大きく異なることを忘れないでください。次のゲームは大きく移動するから、レーンコンディションはかなり違うかもしれないという心の準備

があるとないとは、対応のスピードが大きく変わってくるのです。

さて一般的にはウッドのレー

ンより合成レーンの方が、硬度が高く摩擦係数が低いです。したがって、オイルの量、距離を同じに塗布した場合には、合成レーンの方がいわゆる速いレーンになります。またひとくりに合成レーンといっても、どこかのメーカーの製品なのかによっても変わりますし、販売された年代によっても硬度などの仕様が違います。

いちばん硬いといわれているのはブランドウィックのアンビプロレーンで、軟らかいといわれているのはAMFのHPL

という板です。ちなみにアンビプロレーンは、フッキングポイント付近に4個のダウンレーンマークと呼ばれる目印があります。

皆さんも、自分の投げているボウリング場の板のメーカーや種類を知るのも、ボウリング上達に役立つ部分があると思いますので調べてみてください。

柊樽稔(たなはし・こうた) / 46期 / 高知県出身 / タイトル1 / JOC強化スタッフ・日本スポーツ協会公認指導員・USBCシルバーコーチ・JBC公認ドリラー